

淡路島公園の価値についての共通認識

兵庫県立淡路島公園は、貴重な生態系と自然豊かな景観が残されています。地域住民や県内外の多様な人びとがその自然の中を散策し、また環境学習のフィールドとして利用するなど、高い自然的価値を有した公園です。

また、「ニジゲンノモリ」の開設によって地域外や海外からの来訪者にも広く知られるようになり、高い集客力を有する公園としての存在感を高めています。

さらに、淡路インターチェンジからのアクセスのよさも、公園の魅力を支える重要な要素となっています。

今後は、公園の価値を基礎づけている豊かな自然環境を大切にしながら、地域の日常的な利用を維持するとともに、多様な人びとが淡路島を訪れるきっかけとなるようなシンボルとしての機能を両立させることが求められます。

そのためには、広大な敷地におけるそれぞれのエリアの特性をふまえ、公園の価値を高めるための方策を検討し、重点と緩急をつけ、効率的かつ持続可能な運営を図ることが必要です（新たなゾーニングの必要性）。

また、公園の環境維持と活用の両立に向けては、県、指定管理者、利用者、ニジゲンノモリ、そして専門家が常に対話を重ね、自然環境と社会環境の変化に順応的に対応するためのしくみづくりが重要となります（新たなコミュニケーションのしくみの必要性）。

あわせて、公園利用のさらなる活性化およびDEI（多様性・公平性・包摂性）の観点から、園内の移動方法や施設の修繕についても検討を進め、誰もが安心して快適に過ごせる公園を目指すことが求められます。